

# 将来父のように 人を支えたい

## 「共に生き抜く消防団」

消防団員は、本業の仕事をしながらかボランティアみたいいな活動で、地域の人々を火災や天災等から守るために日々活躍しています。それは、容易なことではなく、本当に命の尊さを知っている人たちだからこそ継続でき、強い信念に裏打ちされて、危険現場にも身を投じることを可能にしているのだと思います。

私の父も消防団員の一人です。地域の知り合いに勧誘されたが入団したきっかけだったそうです。チーム力を強化する一員として父なりに協力しています。しかし、私は父の中には、前から苦しく大変な状況にある人を助けたい、救いたいという志や地域を愛する気持ちが本当はあったと思います。

人々を困難な事態から免れるように、より良く導きたいという思いやりが入団を決断させたと思

たのです。なぜなら、消防団の仕事は、中途半端な気持ちでは貫き通せないほど命の瀬戸際に立たされる場面もあるからです。

父は、会社の仕事以外にも祖父と一緒に農作業を行い、その上で、月に3回、消防車に乗って地域の危険箇所の点検や防火・防災を促す見廻りを行っています。また、万が一の非常事態や火災・天災に備えて、定期的に消火訓練も実践しています。地域毎の消防団が参加して競い合う大会もあり、それは冷静な判断と人命を救える行動力を磨くために企画されているのだと思います。実際の火災現場等を想定して、訓練が本場に活かされるようにメンバーが団結し、全力で取り組むそうです。

先日、訓練で使用したホースを乾かした後に片付けるといいうので、私は父を手伝いました。

「父には自分の好きなことをする自由な時間があるのか。父がのんびり横になってる姿を見かけてないな」等、様々な思いが去来

された時には、何とも言えないやろりがいや喜びを感じると言います。人のために一生懸命頑張る父の心意気を、私は息子として尊重すべきだと考えました。

消防団員は、地域に何かあれば、食事をしていても深夜でも現場に駆けつけ、最善を尽くさねば成りません。常に責任を背負い、心に張りを持っていきます。人を助けるには、まず自分を健康に鍛える必要があると努力しています。厳しく律してコントロールする父。

私たち消防団員に心から感謝し、将来は私も人を支えられるように励みたいと思います。



佐藤俊哉さん(東和中 3年)  
東和町・米川7区

# おめでとうございます

第16回全国中学生防火防災に関する作文コンクールで、佐藤俊哉さん(東和中3年)が佳作を受賞しました。受賞作品をご紹介します(原文のまま)。

佐藤さん以外にも、市内小中学生が各種作文コンテストで、優秀な成績を収めたのでご紹介します



櫻田 幸さん  
(津山中3年)  
津山町・元町第二

第36回全国中学生人権作文コンテスト宮城県大会・登米地区大会が開催され、市内の中学生448人から応募がありました。

「驚きました」と受賞の喜びを語っていました。表彰者は次の通り。宮城県大会 優秀賞

このうち、櫻田幸さん(津山中3年)の作品が県大会で優秀賞を受賞しました。桜田さんは「自分の作文で、多くの人に人権の大切さを知ってもらえればと思います。書きました。まさか賞をもらえると思っていなかったの

櫻田 幸(津山中3年) 登米地区大会 支局長賞 首藤 快(中田中2年) 協議会長賞 佐々木遥(登米中2年) 協議会長賞 酒井裕花(豊里中3年)



及川 遥さん  
(米谷小6年)  
東和町・米谷9区

第66回社会を明るくする運動作文コンテスト(小学生の部、応募作品数114点)で、本市から応募した及川遥さん(米谷小6年)の作品「明るい社会をつくらう」が特別賞(仙台保護観察所長賞)を受賞しまし

た。及川さんは「文章を書くことが好きです。小学校生活最後の年に、受賞できてとてもうれしい。中学にいてもがんばりたいです」と受賞の喜びを語っていました。

## 広報とめ

公益社団法人日本広報協会が主催する全国広報コンクールに、市広報紙「広報とめ」が県代表として推薦されることになりました

## 全国広報コンクールに推薦

た。同コンクールは、平成28年中に発行された自治体広報紙を対象に実施されているものです。今回は、広報紙(市部)の部で「広報とめ9月号」が全国広報コンクールに推薦されます。広報紙の部の9月号は、「広聴事業」をテーマに取り上げた特集が高く評価されました。「企画・デザインが良い」「広聴について施策と市民の声をバランスよく構成している」など評価をいただきました。

